

技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	安全・防災 インフラDX 維持管理 環境 コスト 品質 （該当分類に○を付記）
技術名称	動画による連続位置推計・閲覧システム「GENBA-Explorer」
NETIS登録番号	KK-250053-A
社名等	株式会社イクシス
担当部署	ディベロップメントチーム
担当者	阿部 翔太郎
電話番号	044-589-1500
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 GENBA-Explorerの技術背景は、建設現場で従来行われてきた「写真中心の現場記録」を、360° 映像＋位置情報＋Web閲覧によって、より網羅的・直感的に現場を共有できるようにする、という建設DXの考え方から生まれています。 1. 従来の現場写真管理の課題 建設現場では、進捗確認や施工記録のために大量の写真を撮影します。しかし、撮影箇所に漏れが発生する写真だけでは「どこを撮ったか」「どの方向を見ているか」が分かりにくい、2次元写真だけでは現場全体の状況を把握しにくい、大量の写真を撮影しても記録以外に活用しにくい、といった問題がありました。GENBA-Explorerは、この課題を解決することを出発点として開発されています。 2. 技術の内容 大きくいうと、360° カメラの映像を使って現場を「歩き回るように」遠隔確認できる現場共有システム技術です。 【① 360° カメラで現場を撮影】 360° カメラを自撮り棒などに取り付け、作業員が現場を歩きながら動画を撮影します。1方向ずつ写真を撮るのではなく、周囲360° を連続的に記録するのがポイントです。 【② 動画から「撮影経路」を作成】 GENBA-Explorerの大きな技術的特徴がここです。 360° カメラで撮影した動画から、カメラが現場のどこを通ったのかという連続的な位置情報・経路を推計します。 3. 技術の効果 GENBA-Explorerの「技術効果」は、簡単にいうと、現場を360° で記録し、現場に行かなくても“その場にいないように”確認・共有できるようにすることで、現場管理の省力化・情報共有の精度向上を実現する技術です。 単純に「写真を増やす技術」ではなく、現場の状況を位置情報と360° 映像を組み合わせ、誰でも後から追体験できる形にする技術と捉えると分かりやすいです。 建設現場での効果を一言でまとめると、「現場に行く・撮影する・整理する・説明する」という作業を効率化し、現場状況の記録・共有・確認を遠隔で可能にすることで、施工管理の省力化と情報共有の高度化を実現する技術となります。 4. 技術の適用範囲 GENBA-Explorerの技術の適用範囲は、単なる「360° 写真の閲覧」にとどまらず、**建設現場・土木現場を中心とした「現場状況の記録・共有・確認・教育」**まで広く適用できます。公式情報では、工事進捗管理、竣工検査、現地調査、OJT、施設案内などがユースケースとして示されています。 【適用範囲】 ① 工事進捗管理 施工状況を360° で記録し、遠隔から進捗・現況を確認 ② 施工管理 現場巡回現場を歩きながら網羅的に撮影し、巡回・確認を効率化 ③ 竣工検査 完成確認時成時の現場状況を360° で記録し、関係者間で共有 ④ 現地調査 竣工前・施工前の現況を記録し、後から現場状況を確認 ⑤ 遠隔確認 打合せ 発注者・施工者・設計者などが現地に行かずに状況を共有 ⑥ 安全管理 現場の安全状況確認、安全パトロール、危険箇所の共有 ⑦ 教育・OJT 新人教育や現場教育に360° 現場データを活用 ⑧ 施設管理 案内施設内部・周辺の状況を記録し、施設案内や維持管理に活用 ⑨ BIM/CIMとの連携 360° 現場映像とCIMを組み合わせ、設計・施工データと現況を比較

5. 活用実績

【活用実績】

1. ICT施工現場での活用

国土交通省関東地方整備局の「ICT施工Webセミナー」において、株式会社根岸工業のICT施工の取組事例として、GENBA-Explorerが紹介されています。

具体的には、点群データ＋360°カメラ＋GENBA-Explorer、3次元測量・3Dモデルと現場映像の組み合わせ現場状況の遠隔確認・共有、といった活用です。

6. 写真・図・表

現場を 360°カメラで記録



360°現場体験共有システム

現場を歩き回る感覚で 360°探索できる



ISMS
クラウドセキュリティ認証
ISO27017

NETIS
KK-250053-A

写真はイメージです。

GENBA-Explorer



360度カメラにより動画撮影



アップロードされた撮影画像
及び記録された経路

動画撮影・撮影画像